

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	近久幸子
所属機関名	獣医学部 獣医学科
職位	准教授
在籍年	1 年

教育の責任

獣医学部・獣医学科に所属し、専門科目である獣医生理学を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は、専門基礎科目（獣医生理学、獣医生理学実習、生命科学実習、獣医医療面接実習など）、アドバンス科目（比較運動機能科学、獣医病態モデル学など）、ならびに配属学生の卒業論文指導を行っている。また、獣医保健看護学科の動物形態機能学 B も担当している。

教育の理念

獣医生理学は、動物の生命機能を解明し、獣医療や研究の発展に貢献するための基盤となる学問である。単なる知識の伝達にとどまらず、学生が自ら考え、応用し、未来の獣医師・研究者として成長できる力を養うことを目指す。そのために、論理的思考力・問題解決能力・実験技術・倫理観 を兼ね備えた人材の育成に力を注ぐ。講義では生理学的知識の確実な習得を重視し、実習では主体的な学びを促しながら、科学的探究心を育む。また、動物を対象とする学問として、生命倫理と動物福祉の重要性 を深く理解し、獣医師・研究者としての責任を自覚できる人材を育てる。

教育の方法・方針

・講義では、生理学の基本概念を関連分野（解剖学・生化学・薬理学など）と関連付けながら理解を深める。関連分野と統合的に学ぶことで、より実践的な知識の応用が可能となる。また、ディスカッションや小テストを取り入れ、主体的な学習を促す。知識の受動的な習得ではなく、能動的に考えることで理解が深まり、実際の臨床や研究現場で応用しやすくなる。小テストは web 上で繰り返し行えるものとし、学生がいつでもどこでも気軽に復習できるようにする。小テスト、期末試験などの評価を通じて、知識の習得度を確認する。多角的な評価方法を用いることで、学生の多様な能力を正確に測ることができる。振り返りの機会を設け、自己評価を通じた成長を促す。

・実習では、生理学的測定技術やデータ解析のスキルを習得する。さらに、実験計画の立案や統計手法の習得を通じて、科学的思考力を育成する。実験を計画しデータを解析する経験は、獣医学研究の基盤を築くうえで不可欠である。また、文献調査やプレゼンテーションを通じて、批判的思考力と表現力を養う。論文を読むことは科学的なリテラシーを高め、プレゼンテーションは論理的に考え伝える力を向上させる。また、実習を通じて、動物を扱う際の倫理的配慮や福祉の重要性を理解させる。獣医学は動物の生命に関わる分野であり、倫理観を持つことが信頼される獣医師・研究者となるために重要である。また、研究倫理や動物実験の適切な手法についての指導を徹底する。適切な手法を理解し実践することで、科学的に信頼性の高い研究を行うことが可能となる。

教育の成果

動物形態機能学Bの授業評価アンケートの結果は以下の通りである。

対象者数：68名回答者数：61名回答率：89.7%

【授業の満足度】満足：36人、ほぼ満足：20人、普通：5人、やや不満：0人、不満：0人

- ・レジュメがとても分かりやすく、最後の演習問題は何度も解き直しが出来るので、非常にありがたかった。
- ・質問に伺うと、分かりやすく丁寧に教えてくださったので、ありがたかった。
- ・授業の内容で重要なことが赤で書かれていたりするので、わかりやすかった。
- ・後ろに演習問題を設けていたので、後で復習しやすかった。
- ・説明が分かりやすくて良かった。
- ・様々な資料をスライドに載せてくださったり、分かり易いように説明を工夫してくださったので、理解がしやすかった。
- ・復習問題など演習を多く行えることでさらに理解が深まったり、覚えやすかったのがとても良かった。
- ・授業ごとに小テストがあって、前回のテストの復習をすることができて、知識が定着しやすくてよかった。

今後の目標

グループワークなどを講義に取り入れることで、学生がより主体的に学習できる環境を整え、実践的な学習機会を増やす。口頭試問やプレゼンテーションを評価に取り入れ、思考力や表現力をより的確に評価する。その過程で、学生が自由に質問しやすい環境を整えるとともに、学びの意欲を引き出すよう心掛ける。学部生が研究に興味を持ちやすいよう、これまでの講義・実習内容に最新の研究成果を取り入れるとともに、研究活動への参加を促す。さらに、学会発表や論文執筆の機会を提供し、科学的思考力とプレゼンテーション能力を向上させる。以上の目標を達成することで、獣医生理学の教育をより発展させ、学生が臨床や研究の場で活躍できる基盤を築くことを目指す。

根拠資料

授業評価アンケート 2024